

国語科

I 本年度の目標

学校経営計画に掲げられた「確かな学力の育成、進路目標実現のための学力保障」をふまえ、

1. 基礎・基本の知識、学力の定着を目指す。
2. アクティブラーニング型授業等、魅力ある授業づくりを積極的にすすめ、生徒の能動的な学びを引き出す。
3. プレゼンテーションや文章をまとめる場面における深い表現力を育てる。
4. 新テストにも対応できる的確な文章の理解力、要約力を鍛える。【5-3】

II 本年度の取り組み（課題）

- ① 言葉の基礎知識をきちんと身につけさせる。（漢字・現代文重要語・古文単語・文法）
 - ・重要語句は自発的に辞書をひいて確認させる。【4-1】
 - ・漢字や古文単語などの小テストや週末課題を通して、語彙力を高め、かつ文法の知識理解を深めさせる。
- ② 文章の内容を叙述に即して的確に読み取らせる。【5-3】
 - ・文章の構成に着目し、要約練習をさせる。現代文、古典ともに。
- ③ 自分の考えを論理の構成や展開を工夫して文章にまとめることができるようにさせる。【5-3】
 - ・自分の考えをまとめて、短文で書きプレゼンできる練習をさせる。
 - ・他人の意見を聞いたり読んだりして、それに対して自分の意見を持てるようにさせる。
- ④ 音読を重視する。【4-1】
 - ・日本語特有のリズムを感得させるために、音読、黙読、朗読をさせる。
- ⑤ 授業における言語活動を充実させる。【5-2】
 - ・アクティブラーニングを重視し、発表・グループ学習など意見交換をする場を設定し、プレゼン能力や表現力の向上をはからせる。
- ⑥ 発問と助言を工夫する。【5-2】
 - ・生徒が自分の意見を持ち、筋道を立てて相手に伝えることができるような、生きたことばの授業を目指す。そのために、授業者が日々の授業の中で「発問」と「助言」を工夫し、生徒の言語活動を支援（サポート）する。
- ⑦ 週末課題として問題集を与え、点検することで、継続的な学習習慣を身につけさせる。また自分の学習になる確かなノート作りも推奨する。【4-1】

III 業務分担（任意）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・継続的な学習習慣を徹底的に身につけさせる。ノートや課題が自分のものになるよう指導する。	・重要部分へのアンダーライン、疑問点の記入、発表など自発的に興味関心を持たせる。	・提出物の確認（随時） ・授業評価アンケート（7月、12月）
視野の広さ	・グループ学習などで他人の意見を深く理解した上で、それに対する確固たる自分の意見を持てるようにさせる。	・一単元に一回、他者が書いた文章、他者の意見の批評をする言語活動を行う。	・授業ワークシートの点検（随時）

地歴 ・ 公民科

I. 本年度の目標

1. 地理歴史

基礎的・基本的な知識の習得と課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力の育成のために、アクティブラーニング型授業等、魅力ある授業作りを行う。国際的な視点に立ち、物事を様々な角度からとらえて発信していくことのできる人物の育成を目指す。

2. 公民科

主権者としての自覚と、将来社会に参画していくための力を持った人物の育成を目指す。そのためにアクティブラーニング型授業等、魅力ある授業作りを行う。

II. 本年度の取り組み（課題）

1. 日本史

○歴史的事象と現在との結び付きを考える活動から課題意識を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。

○歴史的事象は立場や見方の違いによって複数の解釈があることに気付かせる。【5－（3）】

○史資料をもとに考え対話することで、主体的に歴史を学ぶ力を育成する。【5－（2）】

2. 世界史

○世界の歴史的事象をとらえつつ、日本とのつながりを理解できる授業を行う。【5－（3）】

○人権の歴史を学ぶことで、社会における有権者の意義と責任感を身に付けさせる。

○実物教材や視聴覚教材等を用いて、意見を発表する機会を増やす。【5－（2）】

3. 地理

○地理に対する関心や問題意識を高め、地域社会で活躍する人材を育成する。【6－（4）】

○主体的に行える作業や五感に訴える実物教材、映像・写真資料などを積極的に活用する。【5－（2）】

○環境の特色と災害との関わりを理解し、地域性を踏まえた対応が大切であることなどに気付かせる。

4. 現代社会・現代社会演習・現代社会探究

○現代的課題を積極的に取り入れ、現代社会に生きる自分とのつながりを意識させる。

○現代社会で起こる事象に対し、自らの考えを論理的に展開できる能力を育成する。【5－（2）】

○主権者として自分の意見を持てるようにする。【6－（4）】

III. 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・史資料をもとに考え対話することで、主体的に歴史を学ぶ力を育成する。	・副教材の史料集を使用し、史料の歴史的価値などを分析し評価する。	・ワークシートの点検（随時）
視野の広さ	・世界の歴史的事象をとらえつつ、日本とのつながりを理解できる授業を行う。	・視聴覚教材を使用し、関心や問題意識も高める。 ・日本の史資料を用い、歴史の多角的な見方を学習する。	・授業ノート、プリントの点検

数学科

I 本年度の目標

「数学的思考力を養うとともに、論理的に考え、それを他に伝えることのできる生徒を育成する」
 「SSHプログラムに数学科として参画する」 【7-(2)】

II 本年度の取り組み（課題）

- 1 学年ごとの組織的な学習指導、宿題提示を行う。 【4-(1)】
 ドリル演習・小テスト等を通じて基礎力を定着させ、論理的思考力につなげる。
- 2 論理的思考力をつけるための授業の工夫。 【5-(3)】
 - (1) 生徒への発問の仕方や、課題提示の仕方など、論理的思考力を養うように工夫する。
 - (2) 複数の解法を考察することで、多角的に事象をとらえる力をつける。
- 3 表現力をつけるための授業の工夫。
 - (1) 発表・グループ学習など意見交換をする場を設定し、表現力の向上を図らせる。
 - (2) 思考の過程を表現するために、記述力を養成する。 【5-(3)】
- 4 科学探究科の指導をより深める。 【7-(2)】
 - (1) 課題研究について、既存・新規の課題研究のプログラムの検証と開発を行い、授業内容の充実を図る。
 - (2) 全国の発表会に参加する。
- 5 普通科を対象としたプログラムの開発、新学力テスト、次期学習指導要領の対応について協議する。 【7-(1)】 【5-(3) (4)】

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・基礎力を定着させるとともに、学習習慣を身につけさせる。	ドリル演習・小テスト・課題	ドリル演習・小テスト・課題への取り組み
視野の広さ	・多角的に事象をとらえる力をつける。 ・探究プログラムの開発 ・発表・グループワーク学習など、意見交換する場をつくる	・複数の解法を考察する ・数学的思考力を養う。 ・意見交換や自分の考えを発表する言語活動を行う。	・授業時の取り組み ・授業評価アンケート ・発表

理科

I 本年度の目標

SSH 活動（探究活動）を核とした解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材の育成【5-（1）】
 課題研究の充実 及び 理数科研究発表会、科学技術コンテスト等への積極的な参加【7-（2）】

II 本年度の取り組み(課題)

- 1 科学探究科における仮説検証型「探究プログラム」・課題研究を充実させる。プログラム・研究内容、講師、場所などを再考し、目的に合わせて、他教科へ分担するなど必要に応じて変更していく。【5-（1）】
- 2 課題研究の充実、各種発表会、コンテスト等への積極的な参加。【7-（2）】
- 3 課題研究の指導体制を見直し、改善していく。研究として正しく意味のある目的・仮説の設定やデータ処理・考察など、生徒主体であり、より質の高いものになるように教員が助言していく。【5-（1）】
- 4 探究プログラムや課題研究を通じて得た、研究データや専門家からの資料等を普通科の授業にも活用できるように工夫していく。
- 5 SSH指定校にあたり、教科内の協力体制を確立するとともに、教科・科目横断的な内容は積極的に他教科と連携し、プログラムを充実していく。
- 6 科学探究科において、将来的に静岡県あるいは日本の科学分野を背負って立つ生徒を育成できるよう教科（科目）指導だけにとらわれず、授業では教科（科目）以外の知識を率先して取り入れていく。そのために、外部の研修会などに教師自身が積極的に参加し知識をつけていく。

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・研究として正しく意味のある目的・仮説の設定やデータ処理・考察など、生徒主体であり、より質の高いものになるように教員が助言していく。	・仮説を立て、検証し、考察するサイクルを徹底し、研究内容が深まるように指導する。	・実験ノートにおける、実験計画やルーブリック等の点検 ・提出レポートの内容評価 ・担当者との意見交換
視野の広さ	・課題研究の充実、各種発表会、コンテスト等への積極的な参加。	・他者との意見交換や自分の考えを発表する言語活動を行い、コミュニケーションスキルを育成する。 ・積極的に校外の発表会に参加させ、他校生徒や指導者など様々な人たちと交流を図る。	・発表会におけるルーブリック評価 ・校外発表会への参加数 ・引率教員からの聞き取り

保健体育科

I 本年度の目標

- 1 体育全般を通して、規範意識と体力の向上を図り、活力と主体性のある生徒の育成。
- 2 集団の一員としての協調性を養い、視野の広い、バランスのとれた生徒の育成。

II 本年度の取り組み（課題）

- 1 運動の課題を持たせ、運動の楽しさを実感できるような授業を展開する。【4-(1)】
- 2 自ら進んで実践する能力、最後まで粘り強く努力する態度を身につけさせる。【1-(3)】
- 3 体育集団内で、生徒同士コミュニケーションを取り合い、授業が展開できるようにする。【5-(2)】
- 4 体育大会・マラソン大会などの体育行事の積極的な参加を促し、自己有用感を高める。【2-(1)】
- 5 マラソン大会及び事前練習での事故を起こさないよう、練習計画を立て、安全に実践する。
- 6 個々に新体力テストの目標を定めさせ、県内優秀校を目指して毎授業時間、体力の向上を図る。【1-(2)】
- 7 保健の教科書内容と現在や未来の健康問題を照らし合わせた授業を実践し、生徒に課題解決能力を身につけさせる。【5-(3)】

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・運動の課題を持たせ、運動の楽しさを実感できるような授業を展開する。	・選択球技及び新体力テストにおいて、各々の目標に対する課題解決の方法を考えさせる。	・目標に対する成果の確認 ・授業時の聞き取り
視野の広さ	・保健の教科書内容と現在や未来の健康問題を照らし合わせた授業を実践し、生徒に課題解決能力を身につけさせる。	・保健の授業で、現在の自分が抱える課題を明確にし、それに対してどのようなアプローチができるのかを考えさせる。	・レポートの記述確認 ・授業時の行動観察

芸術科・音楽

I 本年度の目標

「音楽を生涯にわたって愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、表現する力の向上および技術の習得を目指す」

II 本年度の取り組み（課題）

1. 生徒の活動を丁寧に観察し、諸活動を通して生徒個人の表現力の向上と技術の習得を図る【4-(3)】
 - 「歌唱」：歌詞の内容の読み取り、正しい日本語での発音、曲種に合った発声、聞き手に伝わる歌い方の工夫など。
 - 「器楽」：ギター、リコーダーなどのさまざまな楽器の基礎的技法の習得とアンサンブル。
 - 「創作」：音楽の仕組み、楽譜の読み方、書き方の理解など。
2. 積極的な取り組みができるような授業形態の工夫【5-(2)】
 - 一斉活動、グループ活動、個人活動の時間を設け、生徒が積極的に取り組むことができるよう授業の展開を工夫し、個々の表現力の伸長を目指す。
 - 生徒相互による協力や意見交換、創意工夫を促し、連帯感や充実感、目標達成時の「感動」を共感できる素晴らしさを味わえる活動を行う。
 - ワークシートなどによる活動の振り返りや、創作作品の鑑賞や批評を積極的に行い、より豊かな表現の工夫へと促す。
3. 生涯にわたって音楽を愛好する心情を伸ばす【4-(3)】
 - 生き生きと演奏できる教材の研究を積極的に進める。
 - 幅広い分野の音楽を演奏したり、鑑賞したりすることで、世界各国の音楽に親しむ。
 - 日本の伝統音楽を通して、日本の音階や文化に親しみ、伝統音楽の良さを感じとらせる。
 - 様々な活動を通して、音や音楽がコミュニケーションや生活を豊かにしていく上で欠かせないものであることを理解させる。

III 業務分担（省略）

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	ワークシートなどによる活動の振り返りや、創作作品の鑑賞や批評を積極的に行い、より豊かな表現の工夫へと促す。	・振り返りシートを記入することにより、生徒自身の課題を見つけ、自ら学習を発展させる力を身に付ける。	・提出物の確認（随時） ・授業アンケート(7月、12月)
視野の広さ	生徒相互による協力や意見交換、創意工夫を促し、連帯感や充実感、目標達成時の「感動」を共感できる素晴らしさを味わえる活動を行う。	・ペアワーク、グループワークを行い意見交換や課題解決を行う ・発表会を積極的に行い、仲間の演奏を評価する機会を設ける	・ワークシートの点検(随時) ・実技試験、発表会（随時）

芸術科・美術

I 本年度の目標

「日本の伝統的表現を理解した上での新たな創意工夫」

II 本年度の取り組み（課題）

・色彩の研究

1. 自然のもつ色彩の多様性を発見し、3原色の混色によって再現する。【5-(3)】
2. 配色の工夫による心理的効果の違いを認識し、表現の多様性を学ぶ。【5-(3)】
3. 抽象画の表現を学ぶことにより、自他の内面を見つめ、個性の違いや表現の多様性を学ぶ。【5-(2)】

・形態の研究

1. 鉛筆デッサンを通し、西洋画法にもとづく形態のとらえ方や陰影法を学び、三次元を二次元に移し替える技術を理論的に学ぶ。【5-(3)】
2. 水墨画を通し、東洋の世界観やもののとらえ方を感覚的に学ぶ。【5-(3)】

・自由制作

（平面）

1. B3パネルとケント紙を用いた平面作品。身近な生活や自己の想いを通して独創的な表現に挑戦する。【5-(1)】
2. テーマ・技法・表現方法等の全てを自ら選択し決定する。【5-(3)】

（立体）

1. 粘土を使用した立体作品、身近な生活や自己の想いを通して独創的な表現に挑戦する。
2. テーマ・技法・表現方法の全てを自ら選択し決定する。【5-(3)】

・鑑賞

モネやゴッホの作品を通して、19世紀のジャポニスムによって、日本の芸術が西洋諸国に対しどのような影響を与えたかを学ぶ。また、今後期待される、世界における日本の役割について考える。【5-(2)】

- * すべての課題において互いに鑑賞を交わし、相互理解を深めて感じたことを言葉に置き換える。鑑賞の活動を通して、伝えあうことを学ぶ。【4-(1)】
- * それぞれの意図や思考・感受性を認めるよう心掛ける。【4-(4)】

芸術科・書道

I 本年度の目標

「多様な生徒に対応できるコミュニケーションの向上と学習形態の工夫」

II 本年度の取り組み（課題）

1. 古典作品を学ぶ中で書の知識・基礎を習得させ、多様な技能を学ぶことにより書の文化に触れる。
【4-1】
2. 書に親しみを持てるよう、主に近代詩などの漢字仮名交じりの書を取り入れ、生徒で意見交換をする。【5-2】
3. 古典の臨書を通して身に付けた用筆法を用いて作品制作に取り組み、表現力の向上に努める。その作品を展覧会活動へつなげる。【5-2】
4. 「普段通りの文字」から芸術科「書道」につなげられるよう、生徒個人の得意分野を引き出し、様々な書体、構成に挑戦し、楽しんで取り組めるきっかけを作る。【5-3】
5. 様々な古典の鑑賞を通して、グループ毎に意見を出し合い発表することにより、様々な角度から作品を見ることができ、個人の臨書作品の向上へつなげるとともに、コミュニケーションの向上につとめる。【5-2】

また、意見や感想を文章にまとめることにより、論述の学習時間を充実させる。

英語科

I 本年度の目標

1. シラバスおよび 2019 年度版 CAN-DO リストの内容に沿った英語力育成を行う。【4-(3)】
2. 3 学年を通した SEC のカリキュラム開発と実践を行う。【7-(1)】
3. 新方式入試に対応した方策を実施する。【6-(1)】【8-(2)】

II 本年度の取り組み（課題）

- (1) 4 技能のそれぞれを伸長するような授業を行う。【4-(3)】
 - ・ CAN-DO リストに基づいたタスク重視型の授業を行う。
 - ・ ペアやグループワークを通じて、英語でコミュニケーションが出来るようになる。
 - ・ CEFR レベルを意識し、個人から組織へ、社会から世界へと表現の幅を広げるような課題設定を行う。
- (2) 英週テストや週末課題、長期休暇課題などに取り組みさせることを通じて、主体的かつ計画的に学習を行う習慣の定着を目指す。【4-(1)】
- (3) 外部試験の受験を積極的に推進する。【6-(4)】
 - ・ 実用英語技能検定（英検）の受験者増を目指す。
 - ・ GTEC を全学年において実施し、4 技能の伸長度や CEFR レベルを測定するとともに、早い段階で生徒が CEFR-A2 レベルに達することを目指す。
- (4) 新方式入試に対応する。【6-(1)】【8-(2)】
 - ・ 校内における教員生徒両方に対する情報提供や職員研修などを実施する。
 - ・ 定期試験におけるリスニングテスト実施の可能性を探る。
- (5) 第 2 期 SSH 活動における科学英語教育を推進する。【7-(3)】
 - ・ 従来行ってきたプレゼンテーションやディベートなどの活動を継続する。
 - ・ 新 SEC-II も含めた 3 学年を通じた SEC のカリキュラム開発と実践を行う。

III 業務分担（省略）

IV グランドデザインに係る実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	主体的かつ計画的に学習を行う習慣を定着する。	・ 英週テスト ・ 週末課題、長期休暇課題	・ 英週テストの結果 ・ 提出物の確認
視野の広さ	個人から組織へ、社会から世界へと表現の幅を広げる。	・ 授業やテストにおける課題設定	・ 定期テスト ・ GTEC

家庭科

I 本年度の目標

- 1 アクティブ・ラーニングを取り入れた授業、魅力ある授業作りをすすめ、生徒の主体性を育てる。
- 2 生活に関わる基礎的・基本的な知識技術を習得させる。
- 3 実験・実習等のグループ学習を通してコミュニケーション能力、問題解決能力を育成する。

II 本年度の取り組み（課題）

実験、実習等のグループ活動の中で自ら考え、判断し、表現する場面を設定する。【5-(2)】
知識と技術を活用して学習や生活の中に課題を発見し、解決できるように育成する。【5-(3)】

1 衣生活分野

実習を通して被服材料や被服の構成を理解させるとともに、必要な技術を身につけさせる。

- ・ 進度・評価表を用いて作業の遅れる生徒を少なくする。（自己評価・教師評価）
- ・ 視聴覚教材の導入

2 食生活分野

実習を通して食生活の自立に必要な知識と技術を習得させる。

- ・ 実習における役割分担を明確にし、積極的に実習に取り組みさせる。
（ワークシートによるシミュレーション）
- ・ 事後の記録評価を行う。（自己評価・相互評価）
- ・ 事前準備、事後の片付けをグループごとに分担する。
- ・ 視聴覚教材の導入

3 住生活分野

間取りの設計を通して家族内のコミュニケーションがなぜ重要なのかを考えさせる。
設計演習はパソコンで行う。

4 ホームプロジェクトの実践（夏休みの課題）【5-(3)】

生活の中で課題を見つけ構想を立て、実践し、評価、改善させる。
家族の役に立つ取り組みを体験させる。

- 5 科学探究科においては家庭生活の様々な事象の原理・原則についての科学的理解を深めるために実験を多く取り入れる。

III 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策（IIから転載）	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・実践的・体験的な学習活動	・被服実習 進度評価表を用いて制作過程を記録させる。 ・調理実習ワークシートによるシミュレーション	・進度評価表・ワークシートの確認（随時） ・授業評価アンケート（7月、12月）
視野の広さ	・実験、実習等のグループ活動の中で自ら考え、判断し、表現する場面を設定する。	・住宅の設計演習 間取りの設計を通して家族内のコミュニケーションがなぜ重要なのかを考えさせる。	・授業ワークシートの点検（随時）

情報科

I 本年度の目標

情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解するとともに、コンピュータにおける情報の表し方や処理の仕組みなど、情報の科学的な理解を深める。

個人情報や著作権など、守るべき法律やルールを身に付ける。

II 本年度の取り組み(課題)

- 1 実習を中心とした授業展開とし、問題解決のための情報リテラシーの向上を目指す。【5-(1)】
- 2 IT機器を利用して、自らの考えを発信するための基礎的知識を身に付ける。【5-(2)】
- 3 ネットワーク社会におけるルールとマナーを理解する。

III 業務分担(省略)

IV 主体性・視野の広さを育てる実行計画

	具体的方策	活動の具体	具体的な評価方法
主体性	・実習を中心とした授業により、自ら行動する習慣を身に付ける。	・実習において、操作方法がわからない、理解できないなど不明な点は積極的に質問できる環境を整える。	・作品の提出および内容の確認 ・授業中の態度
視野の広さ	・グループ学習において、他人の意見を理解し、自分の意見を他者に伝えることができるようにする。	・表計算ソフトにおけるグラフ作成の演習など、活動をグループ単位で行う機会を設け、作品の特徴などを発表させる。	・グループ活動での様子 ・作品発表におけるプレゼンの様子